

いしかりちほん

2012 国民春闘



交渉サイクルを確立し 地本に情報集中を！

道本部提起を受ける参加者



重点闘争課題は「労使関係ルール基本要書」提出

石狩・後志両地方本部は、今年度の合同春闘討論集会を1月20日、21日にかけて札幌市定山溪にて開催、両地方本部管内単組・総支部から96名が参加して、今年度の春闘方針について議論を行った。

この討論集会は、1月10日に開催された自治労北海道本部の討論集会において、組織討議案とされた春闘方針(案)について、各地本ごとに単組・総支部が議論を重ねることを主眼として開催し、議論経過は最終的に2月

3日開催の道本部第115回中央委員会にて正式に方針化される予定。冒頭、主催者代表挨拶で石狩地本吉田執行委員長が「今年度の闘争は徹しくなるが、しっかりと方針を確認して取り組む」と述べ、続いて北海道本部より大出書記長が挨拶した。続いて道本部から、先の



講演する 木村 俊昭氏

後志地方本部合同 討論集会

討論集会での提起に基づき、確定期の情勢を含めて全道的な闘争状況についての説明や、今年度春闘における闘争のポイント等が説明された。その後、地方本部からは、今期確定闘争における特徴的な経過や闘いにおける結果等が総括され、地本春闘方針では「基本的に道本部方針をベースに取り組みを進め、これまで同様交渉サイクルを確立し、特に、自立的労使関係制度を見据えた取り組みとして「労使関係ルールに関する基本要書」をしっかりと提出し、当局との交

渉ルールを再確認することが重点闘争課題とされた。また、単組間の情報交換をしっかりと行い、地本にも情報を集中するよう提起がされた。

「地域資源をしっかりと知る」
春闘学習会
今年度は、学習会として、講師に木村俊昭氏を招き、「地域資源をしっかりと知る」

「全道庁労連「1月闘争」
石狩地方本部、座り込み団も奮闘！
道当局より新たに「一般職給与5.5%削減などの独自削減措置継続提案」が提示されたことを受け、全道庁労連は、極めて不当な道当局に対する抗議と不当な姿勢に対しては断固としてたたかうという強い決意を内外に示し、抗議行動を展開することにより闘

時代のエピソードを交えて、地元では当たり前のことでも、他から見ればうらやましがらる事がビジネスになる事例の紹介や、地域活性化のポイントを「自らのまちの地域資源をしっかりと知ること」として、行政・商工会・大学など各機関がまちの情報共有し、一体感をもって取り組むことが重要であると解説があった。

妥結した。この間、全道市町村単組から温かい激励等があり、たたかいを進めていくうえで、大きな力となったことに改めて感謝し、引き続き国民春闘の取り組みに全力を挙げて展開していく。」とのコメントを出した。

エレベーター前で座り込む石狩地本参加団。計40名が参加した。



おそくなりまして、おめでとうございませう。また来月早々に単組オルグでお邪魔いたしますので、イヤがらずに対応をお願いいたします(笑)(む)